

熊本県立劇場季刊誌 ほわいえ  
Quarterly magazine FOYER  
2021 winter

つながる、ひろがる、あつまる  
ほわいえ

011

# FOYER



CROSSOVER

Special feature

対談 熊本市現代美術館館長 日比野克彦  
熊本県立劇場館長 姜尚中

アートキャラバンくまもと スペシャル

第一部:トークセッション

「流域から流域へー人吉・球磨地方の風土を考える」

第二部:復興祈念パフォーマンス

「木と火と水、そして再生の物語」(仮)

全国共同制作オペラ

「團伊玖磨/歌劇『夕鶴』(新演出)」東京初演レポート

熊本の現代作家展Ⅶ  
松木良介展  
くらしと街のデザイン

2021.12.20(月)～  
2022.2.19(土)  
9:30-16:30  
休館日/日曜・祝日・12.31~1.3  
観覧料/無料

主催 / 株式会社肥後銀行  
公益財団法人肥後の水とみどりの奨励基金

肥後の里山ギャラリー  
〒860-0017 熊本市中心区緑長町1番地(肥後銀行本店1階)  
電話:096-326-7800 FAX:096-326-7755  
https://www.mizutodori.jp/gallery/

design studio  
Poster / VI / Symbolmark / Logotype / Mascot / Sign / Book & Editorial / Cut / Calligraphy / Others

熊本県立劇場  
KUMAMOTO PREFECTURAL THEATER

【企画・発行】  
公益財団法人 熊本県立劇場  
熊本市中央区大江2-7-1 〒862-0971  
www.kengeki.or.jp

【編集・制作・印刷】  
株式会社 ジャム  
熊本市中央区練兵町45早野ビル1階 〒860-0017  
www.jam-cf.com

熊本県立劇場季刊誌 ほわいえ 2021 winter 発行日:2021.12.20 ※掲載内容は12.10現在のものです。



熊本県立劇場館長  
**姜尚中**  
KANG SANG JUNG

対  
談

熊本市現代美術館館長  
**日比野克彦**  
HIBINO KATSUHIKO

カテゴリーが混ざり合い  
新しいものが生まれる、  
時がきた

2021(令和3)年6月1日、熊本市現代美術館(以下、現代美術館)の第4代館長にアーティストである日比野克彦氏が就任しました。  
熊本県立劇場と現代美術館は、2009(平成21)年にスタートした、オハイエくまもとが主催する「とっておきの音楽祭」をきっかけに、熊本地震後のこの復興支援事業「アートキャラバンくまもと」での、ミニコンサートやワークショップの共催など関係を築いてきました。熊本地震から5年。復興の次のフェーズに向けて、劇場と美術館が手を組み、地方都市熊本から発信できること、はなにか、コロナ禍を経て、アートはどう変容していくのか。両館長が大いに語り合いました。

Special feature  
熊本市現代美術館館長  
日比野克彦【ひびの かつひこ】

姜…コロナ禍の影響で、オンライン配信をはじめ、アートとの新しい向合い方、発信の方法が広がり、それがスタンダードになりました。

日比野…行きたいけど、行けない。悩んでも、はっきりした答えがない。それはアートが育つ時間でもありません。この「もやもや」とした、わからないものを受け取る力を人間は持っていると思います。コロナ禍で、配信という方法を手に入れて世界中で距離に関係なくアートにふれることができるようになった一方で、現場の温度や湿度を受け取りながら、空気の振動のようなもの大切さに気付くこともできました。これを機に、音楽、絵画、映像などのカテゴリーが混ざり合い、新しい表現が生まれるのではないかと、楽しみです。

姜…アートのあり方は、プリコラージュのようなもの。そこにあるものを組み合わせることで、新たなものが生まれる。コロナ禍によって、これから何が変わっていくのか、楽しみな状態ですね。以前、ユージン(松任谷由実)と対談したことがあります。彼女は美術出身らしいですね。色彩を音で、音を逆に色彩で表現する

など、美術から発する音楽について盛んに話されていました。美術から音楽家が生まれるようなことは、総合芸術、複合芸術においてはあることなのでしょうか。

日比野…70年代、80年代、大学生の頃のユージン、荒井由実さんが出てきた頃は、作家の村上龍さんや、俳優の竹中直人さんに代表されるように、美術大学生が「自分たちの時代をつくるんだ」といった気概を持った時代でした。当時高校生で、それを見ていた私には、芸術がとてもキラキラしたものとして見えていました。美術の土壌から、音楽、文学、パフォーマンスなどが生まれる背景には、プロモーターやアートコミュニケーターのような立場で、次の時代を発信する若者を発掘して、支援する動きがありました。演劇も、音楽も、文学も、哲学も、カオスのような。もう楽しくてしょうがない時代でした。その後にはバブルがはじけて、経済が落ち込んで、文化がなくなってきたか、といたらそうではなかった。70年代、80年代の大きなエネルギーから、90年代の長い「もやもや」期を経て、21世紀の「社会に貢献するアートが必要だ」という考え方がつながっていくわけです。



crossover between theater and museum



左から、姜館長、蒲島知事、隈研吾氏、行定勲氏

県劇自主事業案内  
KENGEKI  
KANGEKI

## Highlight

### アートキャラバンくまもと スペシャル

第一部…トークセッション  
「流域から流域へ」  
人吉・球磨地方の風土を考える」

熊本県立劇場が熊本地震直後から取り組んできたこころの復興支援事業「アートキャラバンくまもと」。震災から5年目を迎える今年、その集大成となる舞台公演を予定していましたが、その最中に新型コロナウイルスの感染拡大。さらにコロナ禍の中で2020(令和2)年7月に発生した豪雨災害で、人吉・球磨地方は甚大な被害を受けました。県立劇場が掲げる「共生の劇場」の真価が問われていると痛感し、これまで取り組んできた「アートキャラバンくまもと」を人吉・球磨地方の心の復興に結集。11月14日、県知事の蒲島郁夫氏、この地域との縁が深い建築家の隈研吾氏、熊本出身の映画監督、行定勲氏を招き、県立劇場館長の姜尚中がモデレーターを務め、人吉駅構内でトークセッションを開催しました。開催当日は登壇者が地域の人と交流しながら「まちあるき」を行いました。トークセッションとまちあるきの模様は県劇公式YouTubeチャンネルで配信予定です。

第二部…復興祈念パフォーマンス  
「木と火と水、そして再生の物語」(仮)

熊本地震から5年。災害からの復興をテーマに、火の国熊本の過去から現在にいたるまでの時の流れと変容する風景を、演劇と映像、そしてコンテンポラリーダンスで表現する復興祈念パフォーマンス作品を創作。クリエイティブチームに行定勲監督と、日本を代表するコンテンポラリーダンスカンパニー「ニブロール」主宰の矢内原美邦氏を迎え、2022(令和4)年3月12日公演に向けて制作が進められています。表現の核となるバックダンサーは、オーディションによって選ばれた熊本を中心に九州在住の6人。それぞれに震災の時に抱いた思いを胸に、公演に向けた稽古に参加しています。舞台上でどのような表現が繰り広げられるのか、期待が高まります。



◎公演情報  
木と火と水、そして再生の物語(仮)  
日時 2022年3月12日(土)  
会場 熊本県立劇場 演劇ホール  
観覧無料(要事前申し込み)



◎TKUにて放送予定  
トークセッション  
日時 2021年12月30日(木)  
17:15~18:10(予定)  
◀県劇公式YouTubeチャンネルにて  
後日公開予定です!



まちあるきでは、地域の人たちとの笑顔の交流が印象的だった



姜…日本は70年代、80年代の文化を経て、90年代、そして今があるわけですね。あの時代のことを身体感覚で記憶している人と、まったくその時代のことを知らない若い世代では、アートに対する考え方が違うように感じます。

この数年間は、熊本地震があり、水害などの災害があり、取り繕うことで精一杯でしたが、やっとここにきて外側に発信して、ケミストリーが生まれるようなことができそうだと予感していました。そんなタイミングで、日比野さんが現代美術館の館長に就任されました。美術館と劇場でいろんなコラボができるんじゃないかと。日比野さんのアイデアがあればお聞きしたいです。

日比野…2007(平成19)年に熊本で展覧会をした時、市街地のストリートでフェスがあって、パフォーマーがたくさんいた。熊本には音楽や身体をつかった表現をする人が多く、音楽と美術を分け隔てなく表現する



ない人も自分でつくったフラッグを持ってスタジアムに応援に行く、というもので、それは今でも続いています。そのように劇場と美術館のコラボを実現するといいかと思います。打ち上げ花火ではなく、定期的にビジョンを持ってやりたいですね。

姜…熊本のお城を見てサッと帰るのではなく、美術館と劇場があって、そこでワクワクするようなものがある、という熊本に行く動機になるようなものをつくっていききたいですね。美術館、劇場という固定概念や、仕切りを壊していった、異種領域を無理矢理くっつけるのではなく、地方都市熊本でクロスオーバーが生まれていく。そうすることで、多義性が出てくるのではないかと思います。それが面白いですね。

日比野…今日の対談は、美術館と劇場がやります、という宣言になりました。姜…その時がきた、という。



Highlight

全国共同制作オペラ  
「團伊玖磨 / 歌劇『夕鶴』(新演出)」  
東京初演レポート

取材・文：熊井玲(ステージナタリー)  
撮影：サラ・マクドナルド

熊本県立劇場、東京芸術劇場、刈谷市総合文化センター(愛知)の三者で制作する、全国共同制作オペラ『夕鶴』が10月30日に東京芸術劇場にて開幕しました。

全国共同制作オペラとは、全国の劇場・音楽堂、芸術団体等が高いレベルのオペラを新演出で制作するプロジェクト。今回は熊本に縁のある作家木下順二の戯曲を原作とした、團伊玖磨の歌劇『夕鶴』に、世界的に活躍する劇作家・演出家の岡田利規(熊本在住)が大胆な新演出を施しました。初演後の反響も大きく、話題作として注目を浴びている本作について、初演レポートが届きました。

全国共同制作オペラ「團伊玖磨 / 歌劇『夕鶴』(新演出)」が10月30日に東京・東京芸術劇場 コンサートホールにて開幕した。

本公演は、2021年に没後20年を迎えた團伊玖磨作曲のオペラ「夕鶴」を、岡田利規の新演出で立ち上げるもの。「夕鶴」は、木下順二の戯



劇中で大きな役割を担う子どもたちは、アニメ調の大きな球体を持って登場する

表情を見せながら右往左往する。ひょろ、成金風の立ちでコミカルな立ち回りを見せる運ずと惣と、大人たちのやり取りを舞台上の「客席」で見つめている子供たちが『夕鶴』の作品世界を立体的に立ち上げていく。2部では、1部で抑えられていたうの思いが、歌と共に爆発。変化していくとひょろに対する戸惑いと憤りが、強い歌声となって客席に向けられる。ただし岡田版つうは、与ひょうに恋するのではなく、「金」の虜になっていくとひょうを、蔑みにも似た憐れみの視線で見据え、鋭く突き放す。しかしある覚悟を決め、与ひょうが熱望する布を織り上げたつうは、2人の蠱惑(こわく)的なダンサーと共に、機織り部屋の重たい扉を開け放ってド派手に登場した。シルバーのドレスに身を包んだつうは動くたびに光を放ち、悲壮感はなくなく、むしろ神々しさを感じさせる。またつうが過去を懐かしむように「あんた」と優しく呼びかけると、そのすぐ横でダンサーたちが腰に手を当てた強い動きやリップシンク、あるいは涙を拭くような仕草を見せ、つうの言葉の奥にあるものを垣間見せた。やがてつうとダンサーたちは、自らの意志で毅然と力強くその場を去り、空の彼方へと豪快に消えていくのだった。

東京初演を終えた岡田は「日本のオペラを代表するとされている作品をわたしたちの生きているこの時代のためのものとするために、文脈化を施す。それは必要なこと、きつといつか誰かがやるはず(べき)のこと。それをやるチャンスがたまたまよく回ってきた、であればその務めをしつかり果たそう、の思いでつくりました」と創作への思いを述べ、「指揮者、ソリスト、ダンサー、合唱の子どもたち、スタッフ——座組の全員とコンセプトを共有し、体現するための時間をかけてこの『夕鶴』を形にできたことに、誇らしさと感謝と安んを感じています。オペラまたやりたいです」とコメントした。ダンサー・振付の岡本は「岡田さんから発信されたコンセプトの中で我々は生き、実現する事とその場を生きる事に快楽を得ながら、今この時代の『夕鶴』を伝えたいです。立場と役割のコントラストが、音楽に寄り添い、全てを体感していただきたい作品。きつと心に残るモノになります。ご来場お待ちしております」と思いを述べている。

◎チケット販売中!  
夕鶴  
日時 2022年2月5日(土) / 開場 13:15、開演 14:00  
会場 熊本県立劇場 演劇ホール  
S席 8,000円 A席 6,000円  
※25歳以下、障がいのある方は3,000円引き  
お問い合わせ 熊本県立劇場 096-363-2233

曲に一切手を入れないことを条件にオペラ化された作品で、岡田にとって本作が、初のオペラ作品となる。出演者には長年つう役に憧れていたという小林沙羅をはじめ、与ひょう役の与儀巧、運ず役の寺田功治、惣と役の三戸大久、さらにダンサーの岡本優、工藤響子、合唱団の子供たちが名を連ねた。また東京公演の指揮は辻博之が、愛知公演と熊本公演の指揮は鈴木優人が務める。

ニメ風の表情が描かれた大きな風船を頭上に掲げ、今度は「いかにも子供らしい声」で童歌を歌い始め……。9月末に東京で行われた本作の会見で、岡田は『夕鶴』は、イノセントな存在であったつうが、資本主義にズブズブになっていくとひょうたちによって資本主義に絡め取られていく物語。しかしつうをイノセントな存在、つまり資本主義というシステムの前にいる状態ではなく、ポスト資本主義に在る存在として描き、資本主義を乗り越えた存在であるつうが、我々にその問題を突きつけてくる、という形で今回は作品を立ち上げたかと思っています」と語っていた。果たして岡田演出版の「つう」は、白い肩が露わになった漆黒のドレス姿で悠然と姿を現すと、抑制された動きと表情で周囲を圧倒する。「生氣」を感じさせない動きや、人間たちのやり取りに困惑してぐるりと首を巡らせる様は、つうが明らかに異質な存在であることを感じさせた。

そんなつうの前で、どこか子供っぽい



左から、三戸大久(惣と)、与儀巧(与ひょう)、寺田功治(運ず) 劇中を彩る鮮やかな衣装にも注目

従来の「白」のイメージとは違う漆黒のドレスに身を包むつう(小林沙羅)



熊本県立第二高等学校  
箏楽部



箏楽部のみなさん。使用する箏は学校所有のもので、中には地域住民から「若い方に使ってほしい」と託された年代物もあるそう

今から約1300年前、奈良時代に唐から日本に伝わったとされる弦楽器・箏(こと)。13本の弦を竹製の爪で弾いて演奏し、凛とした音色が特徴です。熊本県内の高校のうち、箏を演奏する部活動は約20校あります。しかし、部員数が少ないなどの理由で実際に活動しているのは10校ほどしかありません。熊本県立第二高等学校は、2000(平成12)年に創部。現在は1年生7名と2年生2名、3年生16名の合計25名が在籍しています。

「創部のきっかけは一人の男子生徒でした」と顧問の南尊典先生。男子生徒は中学時代の総合学習で箏を知り、個人的にレッスンを受けるほど熱中。高校では部活動をつくりたいと同級生の男子生徒を一人勧誘し、校長をはじめとする先生方を必死に説得して創部に至りました。「箏を演奏する部活動は一般的に『箏曲部』との名称が当てられます。しかし、当校では男子生徒の『箏を楽しみたい』という想いを反映させて『箏楽部』という名でスタートしました」。

13弦を爪弾き奏でる  
中国伝来の雅楽器  
凛とした音色の美しさ

シャープでスッキリした  
音がチームの持ち味  
心に残る演奏をめざす

創部当初から外部指導者として技術指導を担う沢井箏曲院教授・生田真由美先生は、「創部当時から受け継がれるシャープでスッキリした音が第二高校の特長です」といいます。県劇ほわいえの取材班が訪ねた日、部員たちは17本の弦を持つ低音用の箏・十七絃を加えた合奏曲「箏のための展」を練習中。弦を弾いたり、叩いたり、ぐっと押さえ込んだり…。全身を使って踊るように演奏する姿は、雅な音色からは想像もできないほどの体力勝負です。

副部長の西山果那さんは「演奏中は冬でも汗をかき、練習後にはお腹がすきます」と恥じらいながらっこり。部長の水月晴賀さんは「箏は、か弱い楽器と思われがちですが、バンドのように力強い合奏もできるところが魅力」と話します。続けて「まずは人の心に残る演奏がしたい。それが全国大会への出場につながる」と理想です。生田先生も「聴いてくれる人の気持ちを温め、豊かな心を届けられるチームになってほしい」とうなずきました。



全国高校総合文化祭の常連で、ベスト8入賞を目標とする実力派の部活動

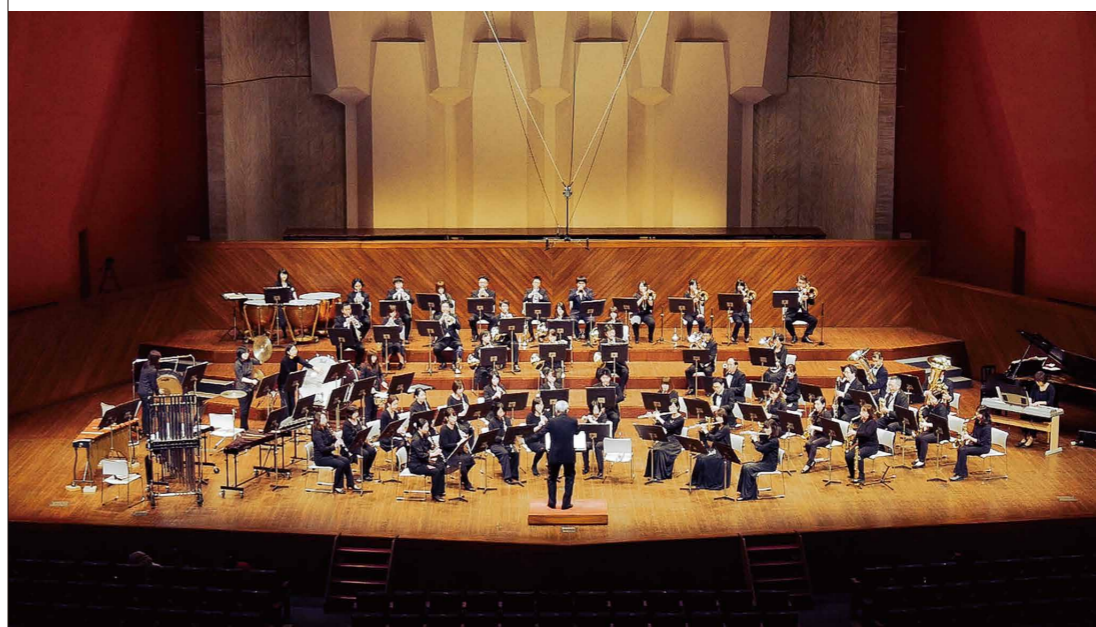
碧落アンサンブル

ふつうに練習して、演奏して、  
仲間と交流できる活動を  
続けていきたい

どこまでも澄んだ青空に響き渡る楽団の演奏。そんな情景を思い浮かべるような名前を持つ吹奏楽団「碧落アンサンブル」。1980(昭和55)年の設立当初は、同じ高校出身の吹奏楽部OB・OGがコンクールに出場するために集まった、いわゆる同窓会バンドだったといいます。設立当初からのメンバーで、現在では代表を務める三浦克洋さんは、「当時は年に1回開催される吹奏楽コンクール出場のために集まっていたが、平成に入ってから楽団独自で演奏会を開催するようになりました。その頃から出身高校は関係なく団員が集まるようになり、現在では社会人を中心とした10代から60代まで幅広い年代の団員が約50人います」と当時のことを振り返ります。設立から10年後に同窓会バンド

から一般の吹奏楽団として活動するようになり、コンクール出場、年に1度の定期演奏会を開催するように。「目標があるからこそ続けられる」との三浦さんの言葉にあるように、コンクール、演奏会、合同音楽祭への参加など、演奏できる「場」に向かって練習し、時には仲間との宴の時間を楽しむ時間が、演奏するモチベーションにつながるものだったようです。

2020(令和2)年からの新型コロナウイルス感染症拡大に伴う自粛ムードは「存続の危機」というくらいに状況でした。そんな中、前に進むきっかけとなったのが、宮崎で開催された「九州シティバンドフェスティバル」への参加でした。「熊本県内の団体合同のバンドを組み、参加したことがとても楽しかった。熊本の楽団同士、ふだんから団を越えた交流が盛んだったからこそ実現できた」と語る三浦さん。2022(令和4)年2月に3年ぶりに開催される定期演奏会に向けて「ふつうに活動できること」がどれだけ貴重なものか噛みしめる日々だといいます。



三浦 克洋 [みうら かつひろ]  
碧落アンサンブル 代表  
バスクラリネット奏者

◎公演情報

第30回碧落アンサンブル定期演奏会  
日時 2022年2月27日(日)  
開場13:00(予定)、開演13:30(予定)  
会場 熊本県立劇場 コンサートホール

写真は、2017(平成29)年の第27回定期演奏会

SPECIAL NEWS!

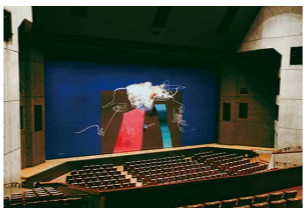
熊本県吹奏楽連盟  
創立65周年記念表彰

11月7日、コンサートホールで熊本県吹奏楽連盟創立65周年記念式典及び記念演奏会が開催されました。記念式典では、九州大会連続金賞受賞団体の表彰が行われたほか、熊本県の吹奏楽発展に寄与したとして県立劇場が表彰を受けました。記念演奏会では、10月に行われた全国吹奏楽コンクール高校の部で九州代表として出場し、金賞に輝いた玉名女子高等学校吹奏楽部による演奏も行われました。今後も引き続き、熊本県の吹奏楽を愛するみなさまを応援し、スタッフ一丸となってサービス向上に努めてまいります。



舞台さんのお仕事道具  
緞帳(どんちよう)

舞台と客席の間を仕切る幕のことを「緞帳」といいます。演劇ホールの緞帳のタイトルは「THE KUMAMOTO」。劇場の顔ともいえるこの緞帳の原画は、不知火町(現・宇城市)出身の画家マナブ間部氏の作品で「熊本の風土―火と水と大地とそこに生きる人々のエネルギー」をテーマに描かれたものです。公演内容によっては、この緞帳をほかの幕に変更することがあります。オペラやバレエではオペラカーテン、歌舞伎や日本舞踊では定式幕などがそれにあたります。これらの幕は演出上重要な役割をもち、時に芝居をします。演劇等で結末が叙情的なものであるときは情感を残すようにゆつくりと、またミュージカルやダンス等テンポよく終わりたいときはすばやく降ろします。最後のカーテンコールでは、アーティストと観客が別れを惜しむかのように、観客の拍手とともに何度も何度も昇降します。舞台袖から見える出演者の笑顔や涙、観客の喜びや感動を感じるこの時間が舞台スタッフの仕事冥利に尽きる瞬間です。



あなたの楽器見せてください

ザ・シンフォニエッタ  
バイオリン奏者  
高橋 弘行 [たかはし ひろゆき]

バイオリン

私は幼少の頃からバイオリンを習っていましたが、練習嫌いで大学生になると同時にあまり弾かなくなりました。しかし、大人になってしばらくすると演奏を再開したくなり、そのとき持っていた初心者用の楽器を手に、子供の頃習っていた先生を訪ねました。このことがきっかけで、母が私に内緒で用意してくれたのが、このバイオリンです。

ハンガリー産で、明るく柔らかな音色が気に入っています。オールドでもなく、バイオリンとしては安価なものですが、「バイオリンを弾くこと」と共に両親が私に与えてくれた大切なものです。

さて、現在の私は「アマチュアオーケストラ・ザ・シンフォニエッタ」で演奏をしています。ザ・シンフォニエッタは2019(平成31)年の演奏会を最後に、活動を休止していましたが、2022(令和4)年の秋に3年ぶりとなる演奏会の開催を予定しています。皆様に素敵な演奏をお届けしますので、ぜひ聴きにいらしてください。



高橋 弘行  
[たかはし ひろゆき]  
ザ・シンフォニエッタ  
バイオリン奏者



バイオリン  
Ferenc Bela Vaci(2007年)

県劇スタッフリレーコラム  
事業グループ  
濱野 史織 [はまの しおり]

「今日の体温は何℃  
でしたか？」

10月某日。私は今、東京芸術劇場のリハーサルルームにいる。来年2月5日公演予定の全国共同制作オペラ 歌劇「夕鶴」の制作に立ち会っている。私の朝は、他の人より早く劇場に入り、部屋の鍵を開けることから始まった。サーキュレーターを起動させ換気を行い、CO2濃度計を確認。しばらくすると、関係者が続々と部屋に入ってきて、念入りに拭き掃除をして持ち場のチェックを始める。少し落ち着いて各々が仕事を始めると、キャストが集まり始め、私は声をかける。「おはようございます！今日の体温は何℃でしたか？」

ふと昔のことを思い出した。劇場で働き始め、コンシェルジュとして主催者サポートを始めたばかりで、緊張で会話もままならない頃。公演当日の朝、主催者にどう話したらよいか迷っていたことや、その時一番有効だった「今日はいい天気ですね」の一言。この変哲もない会話のテンプレートに、どれだけ

助けてもらったことか。それから長い年月を経て、「今日はいい天気ですね」は勇気を出して声をかけるための言葉から、公演の成功を願う言葉に変わり、コロナ禍の今はその役目を「今日の体温は何℃でしたか？」が担っている。

「35・6℃ですね」あれ？今日はものすごく低い…不安そうなキャストの声で我に返り、体温を記録しながら笑顔で答えた。「昨日から急に寒くなりましたもんね、大丈夫ですよ。あとでもう一度計ってみてください。いつも通りに戻っていますよ」「昨日食べた物やお薦めの舞台の話など、気持ちのいい会話が続いた。稽古が始まると、今までのオペラでは見たことのないような演出家岡田利規氏の斬新な演出アプローチと、互いを信頼し、良い表現を創ろうとするアーティストたちやスタッフの熱とが相まって、稽古場はとてつもない雰囲気だった。きっとこの公演は良い千秋楽を迎えられるだろうな。」

「夕鶴」は、熊本公演が千秋楽。ぜひ、みなさんのその目と耳で、最後まで見届けてください。

寄稿

つなぎ美術館 学芸員  
楠本 智郎

つなぎ美術館  
開館20周年記念企画展

今秋、つなぎ美術館では開館20周年を記念する企画展として柳幸典つなぎプロジェクト成果展2021 Beyond the Epilogue「エージン・スミスとアイリーン・スミスが見たMINAMATA」を開催した。柳幸典は社会問題と正面から向き合う現代美術家として世界を舞台に活躍しており、エージン・スミスとアイリーン・スミスは水俣病による惨状を世界に伝えた写真家として広く知られている。いずれの企画展も公的施設のあり方と可能性を問う前例のない挑戦的な内容となったが、熊本県立劇場の理解と協力により、前者では同劇場館長の姜尚中氏と柳幸典氏の対談が、後者では中川賢一氏によるピアノコンサートが実現した。対談では、美術にも造詣が深い姜氏が柳氏との対話のなかで津奈木町の3年にわたる活動の意義を丁寧に振り返った。ピアノコンサートでは、中川氏が奏でるピアノの調べが会場のホールから「エージン・スミスとアイリーン・スミスが見たMINAMATA」の展示室まで届き、50年前のモノクローム写真を臨場感をもたらした。実は熊本県立劇場とのタイアップは今回が初めてではない。小さな町の美術館を長年にわたり支援し、記念すべき開館20周年を対談とコンサートでもり立ててくれた同劇場には心より感謝申し上げたい。